

始良ニュータウン

向こう三軒両隣、気配り助け合い



くずみん

第22号 令和3年7月15日

発行 西始良校区コミュニティ協議会
始良市西始良一丁目22-3 TEL 0995-73-8415
発行人 会長 前田昇一



コロナに負けない 西始良

令和2年 始良ニュータウン花火より

校長に任命され二年目になります。まだまだ緊張の毎日ですが、一言ご挨拶申し上げます。

校区の皆様には、日頃から校区コミュニティ活動にご理解ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各行事・イベントが中止・延期となり寂しい一年でした。現在では、新型コロナウイルス感染防止のワクチン接種も加速している状況ですが、収束へ向けて「止まらない雨はない」の精神で頑張っているところです。

収束の暁には、気軽に参加・気軽に楽しめる企画を開催し、住民同士の絆作り・青少年の健全育成・交通安全・環境美化・高齢者の見守り活動など、地域に暮らす人たちの思いを活かした地域づくりを実現できるように努め、校区の活性化を図って参ります。今後とも、西始良校区コミュニティ活動に対し、皆様のさらなるご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



校区コミュニティ協議会

会長 前田 昇一

西始良校区コミュニティ会長
の前田です。会

頑張る西始良

おやじ会が発足して約二十年が経過しました。その間、代表者の方を中心に会員の方々が知恵をだしあって素晴らしい活動をされてきました。今回は、年間の活動計画を紹介します。将来西始良校区を背負うであろう(否、現在も背負っています)おやじの会を温かく見守って頂きご声援をお願いします。

- 【設立年月日】 平成一四年 設立 (いきいきワクワク塾)
- 【代表者】 益森 広行
- 【現在会員数】 二十五人
- 【活動の目的】 西始良の子供たちの健全育成を支援し、会員相互の親睦を図るとともに、ボランティア精神をもって地域社会に貢献する。また、地域活動を通じて地域の活性化と子供たちが安心して暮らせる明るい未来をつくることを目的とする。
- 【年間活動計画】
 - 四月 鯉のぼり掲揚(五月に撤去)
 - 五月 学校環境美化活動(草刈り等) PTA親子作業協力

- 六月 いきいきワクワク塾「おやじ米の田植え」
- 七月 始良ブロックおやじソフトバレーボール大会参加
- 八月 ニュータウン夏祭り神輿作成 重富海水浴場でのトミ貝採り (親子で重富干潟の生き物ツアー) 学校環境美化活動(草刈り等) PTA親子作業協力
- 九月 学校環境美化活動 (草刈り、運動会準備、駐車場整備等) PTA親子作業協力
- 十月 いきいきワクワク塾 「おやじ米の稲刈り、脱穀」収穫祭 PTAバザー出店協力
- 十一月 PTAバザー準備
- 十二月 いきいきワクワク塾 「餅つき体験」 (門松作成)
- 一月 鬼火焚き
- 三月 学校環境美化活動

(資料提供 西始良小学校 教頭 久木崎 敬)

事務局便り

事務局では、コピーを承っていますのでご利用下さい。

- ◇ 白黒一枚二円、カラー一〇円
- ◇ 開設日 毎週 月・水・金
- ◇ 時間 午前九時～午後五時

お気軽にお立ち寄り下さい。

今年度も、七月三十一日「ミニ夏祭り」を実施予定しております。地域の皆様、企業様には、協賛金のご協力ありがとうございます。また「わが社も、協力したい」と思われましたら、事務所までお持ちいただければ幸いです。

編集後記

今回は、「せいあいクリニック」の院長の伊瀬知毅先生にご多忙の中、玉稿をお寄せ頂きました。先生におかれましては、日頃、地域医療に真摯取り組み続けていらっしゃる様子が伺えます。

次に、「おやじの会」にスポットを当てて特集を組みました。子どもたちを中心に置いた活動の一端をご理解頂けたら幸いです。

今年も、会員の皆様へ親しみやすい機関紙をと思っておりますので、コロナ禍のもと今後も温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。(事務局長 岩重郁夫)

向こう三軒両隣

気配り助け合い支え合う

本協議会発足六年目を迎えて



事務局長 岩重 郁夫

平成二十七年四月に本協議会が発足して今年で六年目を迎えました。目的は「校区内における共通の課題解決や地域活動の活性化を図ること」であるとし、新たな組織の中で五つの部会で行事等を推進し活動してきました。その中において夢のある町づくり目指してきました。ともすれば、団地の中にあつては人間関係の希薄さは否めませんが、各組織の頑張り協力しながら、その解消に努めてきました。その間、地域の皆様の温かいご支援ご協力のもと確かな歩みを続けています。

さて、毎年各自治会（一〇名〜二〇名）から推薦された総務約一〇名の部員の方々を中心に行事等の活動が展開されています。考えてみますと過去、延べ約六〇〇名の部員方々が携わつてきました。地道ではありますがそれなりに着実な成果を上げてきました。これもひとえに、地域の皆様方の本会議に対する不断のご理解・ご協力の賜と申します。

今後、本会議の課題はなにかを探りそれに向かつて地域方々と一丸となつて盛り上げて行きたいと思ひます。さらに、さすが西始良校区だと自



他共に認められる素晴らしい校区にしたいと願っています。

最後になりましたが、今年もコロナ禍のもとお互いにこの試練を乗り越えよう、重ねて当会議へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

役職	氏名
会長	前田 昇一
副会長・会計	濱田 健一
事務局次長	岩重 郁夫
総務部部長	鶴 宗太郎
青少年育成部部長	下川路 久夫
健康部部長	鶴木 孝夫
福祉部部長	権 丈 正
地域づくり部部長	内田 義治
監事	清水 裕二
監事	砂原 直子
監事	休坂 博文

ちんちん、ぼっぼっで行きましょか？



副会長 濱田 健一

会員の皆様、如何お過ごしでしょうか？ことはコロナ禍の中梅雨入りも早く、心も体も気候も「うつつとうしい」と感ずる日々が続いておられます。

私のライフワークは、教育相談・労働相談・自治会活動・コミュニティ活動等が柱になっています。

先日の道端教育相談では、「子どもさんを校門まで見送るお母さんとの立ち話。「新学期になつて学校に行きたがらなくて」と。「お母さんに心配事ありませんか？」と問うと、自分の母親のことで心配事があることなる由。「お母さんはニコニコしていることですよ」と話しました。学校に行きたがらない子供たちには「心配事のある親を心配する」心根があり家を離れたい、ものなのです。

労働相談も、自分一人に仕事が集まる、という圧迫感やイライラ感の相談が多いです。仕事に余裕がある人が、広い心で受け入れてあげるといふ姿が、こんな世の中のささやかな潤滑油になるのでは？と思われませんか。

そんなことを語り合い続けて活動する、コミュニティの仲間たちです。

「コロナ禍も、ちんちん、ぼっぼっ、行きましょか!!」

新型コロナ渦に 今後の医療のあり方を 考えさせられる日々



せいあいクリニック 院長 伊瀬知 毅

昨年、鹿児島県第一号のコロナ感染患者が市内に発生し、騒然となった。医療者である私自身も、身近に迫る未知なる感染症にどう立ち向かうべきか、危機感を感じながら、診療方法や医療材料全てを見直す日々が始まりました。一般診療患者さんと風邪症状の患者さんを完全に分けるため、専用の診察室も造り、安心して診療を受けて頂くために、あらゆる対策を講じてきた。ある拠点病院の感染対策チームに当院の感染対策を評価して頂いたところ、「何も指摘することはない。クリニックでここまで取り組んでいることに驚いた」と嬉しい評価を頂き、自信を持ってやっていたこと、スタッフと共に強い意志を持つことができた。

ワクチン接種も始まり、その効果を期待したいところではあるが、万全とは言いがたい。マスクの着用や手洗いが定着する社会となり、



インフルエンザが激減したことは、予防対策効果は明らかであり、各個人の努力を今後も継続して頂きたいと願っている。

コロナは、ハード面への影響だけでなく、コロナ以外の病気の治療にも大きく影響している。私事ではあるが長期療養中であつた弟の面会も制限され、その最期を看取ることができなかった。「自宅で療養していれば」とその思いを強くしているとき、「絶対病院には行きたくない」と

いう患者さんの訪問診療依頼があつた。仏壇のある部屋に布団を敷き横たわる患者さんを見て、残された時間は僅かと推測された。険しい表情で「どうもない。病院には行かない。何も食べたくない、オロナミンCなら飲む」そう訴える患者さんの意思を尊重することに徹した。毎週訪問し、患者が話す自慢の話を傾聴するうち、診察も素直に受けて下さるようになり、患者さんに変化が現れた。なんと、ご飯を2杯も食べるようになったのである。表情も顔色も変化し、訪問の度、ニコニコと迎えて下さつた。奇跡が起こつたような数週間だったが、突然、状態が悪化し往診に行くこと「大丈夫」と言い、笑みを浮かべ私たちに手を合わされた。数時間後、息を引き取られた。家族が寄り添い、最期の時を迎えられたその光景は、弟にも与えてやりたかつた時間として振り返る私があった。入院や入所でも面会も制限され、患者や家族も不安や心配を感じながら過ごすより、家族に見守られながら自宅で療養する昔の日本の姿が、見直される時だと憎きコロナが課題を与えているのかもしれない。医療も新たな在宅医療をふまえ、今後を展望する時に来ていると考えさせられている。